1. ヨハネ福音書の概要

・独特なプロローグ（１章）

・独特な表現内容

　「命のパン」「世の光」「よき羊飼い」「私は道であり、真実であり、命である」

・特有のエピソード

カナの婚宴の奇跡、友人ラザロの復活、弟子の洗足など

・ヨハネ福音書の構成（配布プリント）

2. プロローグ（1:1-18）

・冒頭での特徴づけ

　マルコ　「神の子」

　マタイ　「ダビデの子（ユダヤ人メシア）」

　ルカ　「拒絶される預言者」

　ヨハネ　「天からの啓示者」

・共観福音書と類似モチーフ

　受肉（処女降誕）、イエスの受難、キリスト信仰者、洗礼者ヨハネの証言

3. イエスの本質

・「ことば」の本質（１章のプロローグ）＝イエスの本質

　「神と共にいる」―アブラハム以前（8:58）、神と共に（17:5）

　「神である」―父とひとつ（10:30; 17:22）、神と同一視（12:44-45; 14:8-11）

　「命である」―復活・命（11:25）

　「光である」―世の光（9:5）

　「この世に来る（受肉）」―天から派遣された（3:13, 16, 17; 17:21, 23, 25）

　「世に拒否される」―ユダヤ人による拒否（5:43）、殺害計画（11:45-57）、受難・死（18-19章）

「神の栄光」（1:14）―神の栄光の具現化（12:41）

・共観福音書：イエスは何をしたのか（活動）、どのような影響を与えたのか（効用）

・ヨハネ福音書：イエスは誰か、何か（本質）

　evgw, eivmi　エゴー・エイミ （I am … ）　「私は～である」　命のパン、世の光、良き羊飼い、道・真実・命、門、など

　金太郎あめ的描写（どこを切っても同じ絵柄）

☆神と同一視☆

　神の正体：「わたしはある（I am who I am; I am what I am）」

LXX　出3:14 evgw, eivmi o` w;n

ヘブライ語　エフィエ　アシェル　エフィエ

אֶהְיֶה אֲשֶׁר אֶהְיֶה

「いる、ある」訳

「わたしはある。わたしはあるという者だ」（新共同訳）

「私はいる、という者である」（協会訳）

「わたしがいるのだ、確かにいるのだ」（左近淑訳）『左近淑著作集　別巻　聖句研究』（教文館、1998年）99頁

「なる」訳

 　「わたしはなる。わたしがなるものに」（岩波訳）

「わたしはなろうとする者である」（フレットハイム訳）T.E.フレットハイム（小友聡訳）『出エジプト記』現代聖書註解（日本キリスト教団出版局、再版、2007年）106頁

★イエスの発言として借用　→　ヨハネ8:28, 58; 13:19

4. 二つのセクション

4. 1. 第一セクション（1:19-12:50）

・過越祭（2:13; 6:4; 12:12）→約2-3年

・エルサレム上京（2:13; 5:1; 7:10; 10:22; 12:12）

・冒頭からイエスの正体が開示（1:29, 34, 36）

・７つの奇跡

（1）水をワインに変える（2:1-11）（最初のしるし）

（2）カファルナウムの役人の息子を癒す（4:46-54）（2回目のしるし）

（3）ベトザタの池で病人（体が麻痺した人）を癒す（5:2-9）

（4）5千人の給食（6:1-14）（6:14、しるし）

（5）湖上を歩く（6:16-21）

（6）目の不自由な人を癒す（9:1-12）

（7）ラザロを生き返らす（11:1-44）

・イエスの正体との関連づけ

　五千人の給食（6:1-14）←「命のパン」（6:35）

　目の不自由な人（9:1-12）←「世の光」（9:5）

　ラザロの復活（11:1-44）←「復活・命」（11:25）

その他　ニコデモとの会話（3章）、サマリアの女との会話（4章）

・二元論的世界観

　イエスを受け入れる者（神に属す者、キリスト信仰者、ヨハネ共同体、光、天上、霊、救い、命、神）

VS

イエスを受け入れない者（神に属していない者、非信仰者、ユダヤ人、闇、地上、肉、罪、死、悪魔）

（参考）ヨハネ8:47

・歴史的背景

　特殊用語　avposuna,gwgoj aposunagōgos (apo + sunagōgē) 「会堂から除名された、閉め出された」（ヨハネ9:22; 12:42; 16:2）

 ユダヤ人会堂

キリスト信仰者（厳格な二元論）

・イエスの正体と二元論

①パン（朽ちる、物質的、不信仰）（6:26, 36）⇔　天からのパン（朽ちない、霊的、永遠の命）（6:27, 33, 35, 40）

②井戸の水（渇く）⇔　イエスの水（渇かない、永遠の命）（4:13-14）

③人の視力（見えない、暗闇）⇔　イエスの光（命の光（8:12）、見える（9:39））

4. 2. 第二セクション（13:1-19:42） ☜死に至る約24時間

・弟子の洗足（13:1-20）

・決別説教（13:31-16:33）

・イエスの祈り（17章）

・受難と死（18-19章）

5. 共観福音書との比較

・ヨハネ福音書にない共観福音書のエピソード

　生誕物語、洗礼、荒野の誘惑、神の国の宣教、たとえ話（パラボレー）、悪霊祓い、山上の変貌、メシアの秘密、主の晩餐の制定語、ゲツセマネ/オリーブ山の祈りなど

・ヨハネ福音書のみのエピソード

 水をワインに変える（2章）、ニコデモとの会話（3章）、サマリアの女との会話（4章）、ベトザタの病人（5章）、生まれつき目の不自由な人（9章）、ラザロの復活（11章）、ユダヤ人批判の言説（5:19-47; 8:21-24, 39-47）、決別説教（13～17章）など

・奇跡理解の相違

例）マルコ5:35-43（ヤイロの娘の復活）とヨハネ11章（ラザロの復活）

　　　　　　　　　　マルコ　　　　　　　　　　　　　　　　ヨハネ

遅延の理由　　　　偶然・突発的（別の病人の癒しのため　　　　　　　意図的

場所　　　　　　　家屋内（イエスと病人、家族）　　　　　　　　　　外で（群衆の面前）

　沈黙命令　　　　　あり　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　なし

　著者の意図　　イエスを奇跡行為者としてのみ崇拝する傾向を抑制　 イエスの正体の立証

（マルコ8:11-13） （ヨハネ4:48; 11:15; 13:58など）

「力ある業・奇跡」（du,namij dunamis→dynamite, dynamic）（マルコ6:2, 5; マタイ11:20; 13:58など）

「しるし」（shmei/on sēmeion）（ヨハネ2:11; 4:54; 6:14; 20:30など）　…　イエスの正体の立証

・自分自身について

　寡黙なイエス（共観福音書） ⇔　冗舌なイエス（ヨハネ福音書）

　エゴー・エイミ「わたしは～である」

マルコ（2回）、マタイ（5回）、ルカ（2回）、ヨハネ（46回）⇒高い露出度

6. ヨハネ福音書の資料

①「しるし」資料

2:11「最初のしるし」、4:54「2回目のしるし」、6:14「しるしを見て」、20:30「多くのしるし」

②講和（スピーチ）資料

　13-14章（資料Ａ）、15-17章（資料Ｂ）

13:36 ペトロ、14:5 トマス … 尋ねる

14:31 「さあ、立て」

16:5 誰も尋ねず

15章　まことのぶどうの木、16章　聖霊の働き、17章イエスの祈り …　長いスピーチ

18:1 「こう話し終えると、、、へ出て行かれた」

13-14章　　　　　　　　　　　　　　　18-19章

（資料Ａ）　　　　　　　　　　　　　 （受難物語）

15-17章

（資料B）

・14章と16章の共通テーマ

　　(a) 世を去る、 (b) 弁護者としての聖霊（弟子を支える）、(c) 慰め・励まし

③受難物語資料（18-19章）

④その他の資料（1章の「ロゴス讃歌」など）

（参考）21章（補遺）P66など初期の写本に所収